

第3回 学びのひろば



教職協働

～ **YNU** は○○な大学 ～

第3回学びのひろばで教員・職員が一緒になって考えたYNUのキャッチコピーとその理由を紹介いたします。

○キャッチコピーを記入してください。

「旭山動物園に挑戦する」 YNU

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

教員、職員がまずお互いを知り、その上でどのような YNU を目指すか話あったところ、「旭山動物園」の事例がとりあげられた。

上野動物園より、規模も動物の種類もずっと少ない旭山動物園は、動物の見せ方を工夫する以外にも職員の配慮が随所に見られるなど様々な努力の結果、来園者数では上野動物園を超えているとのこと。

YNU も規模では東大には及ばないけれど、「動物＝教員、職員＝職員、来園者＝学生」として教員、職員が協力しているいろいろ挑戦ていこうという結論にいたった。

○キャッチコピーを記入してください。

YNU は「未来の人と知と緑を育み、進化し続ける“港”」

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

キーワードをいくつか出し、それぞれの特徴を話し合い、大学の使命である教育研究を「人と知」とした。YNUの特徴である「緑」を盛り込んだ。

港を大学に例え、人が集まり、出航するイメージとした。

○キャッチコピーを記入してください。

ONE FOR ALL

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

・意味

あらゆることに発展していくということ。より具体的には、あらゆる対象をYNUファミリーと捉え、一緒に発展して行こうという考えのこと。

その考えを実践し、グローバルで緑豊かな地域と、一体感を持って街の雰囲気や歴史を作り、同時に世界的な視野をもち羽ばたいていく。

・誰に向けて

今のHPのキャッチコピーは世界（世の中）に向けて発信するもの。なので、私たちはファン・関係者に向けたメッセージを考えることに。

また、このキャッチコピーによって

○学生 大学生らしい行動、YNU生としての誇りを持つ

○地域 YNUがあることを誇りに思う

ようになって欲しいという思いがこもっています。

○キャッチコピーを記入してください。

YNU は「話しやすい」大学

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

- ・ いろいろな話が出た中で、共通のテーマとして事務と教員が「話しやすい関係が必要」ということが多く出た。
- ・ 他にも「思いやり」、「気づかい」、「お互いを尊重」などのテーマが出たが、結論として「話しやすい」につながるのではないかという結論になった。

○キャッチコピーを記入してください。

きょうしょく

きょうどう

YNU は「共食(飲)共働できる」大学

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

- ・キャンパスが1つなのは強み、なのにそれを最大限に活かしていない
- ・教員・職員間で情報を共有できるように（職員の委員会参加、意見交換活発に、交流会。共食(飲)! を設ける）
「情報の共有化」は何度も課題として挙がっているが、なかなか改善されない・・・
- ・学生との交流？ 学生と職員とのかかわりも。
- ・部局内、部局間での情報共有、交流。
- ・対等な関係で高め合う。
- ・明るく幸せに楽しく！！ その中にも人間教育を。

5班では、キャンパスが1つという強みにも関わらず、係・部局間で仕事が重複したり手続きが違ったり、連絡ミスで学生をたらいまわしにしてしまったり・・・と情報の共有がなされておらず最大限に活かされていないという問題提起がありました。また「部署によっては学生と直接的な関わりを持ってない」、「他の研究室や他学部・研究科の情報を知りたい」など、担当業務や所属を超え、学生・教員・職員さまざまなベクトルで「つながる」機会がほしい！という声が聞かれました。他大学では、教員・職員・学生がお茶やお菓子をつまみながら気軽に話せる場があるそうです。一緒にお昼を食べたり（ランチミーティング?）、勤務時間後にカフェに集まったり・・・そういう気軽なコミュニケーションの場で、対等な関係で話すなかで、人間力を”アップ”できたらいいな、「明るく幸せに楽しく」働ける・学べる大学になるといいな、という思いを込めて、このキャッチコピーを作成しました。

○キャッチコピーを記入してください。

YNU は 「人が育つ大学を目指します! 」

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

組織はヒト・モノ・カネで出来ているが、その中でもヒトが最も大切であり、そのヒトの成長が組織にとって最重要課題である。大学という組織には教員・職員・学生というヒトがいるが、そのどれもが成長できるような組織でありたい。

ヒトは自ら考え・気づき・行動することで成長できる。YNUは教員・職員・学生が成長していくために、学びやすい大学、個人が自由に新しいことにチャレンジできる大学でありたい。そして、互いに学び合うことでチームとして成長し、チームのワクを超えて連携していくことで最終的には全体として成長していく大学でありたい。

○キャッチコピーを記入してください。

YNU は「陽だまりの」^も^り大学

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

- ・ 上下関係がフラット・研修がしっかりしている・質問しやすい職場・学生への対応が良い・柔軟性のある教職員が多い
- ・ 現在進行形（~ing）で教職協働→ 人材「もり」たくさん
 - 「人が育つ」「あたたかい」「明るい」大学
 - + YNU=緑=「森」 →人を木と見立て
 - 人が育つ→「木が育つ」 & あたたかい、明るい→「陽だまり」
 - YNU は陽だまりの大学（もり）

○キャッチコピーを記入してください。

YNU は「NO」 → 「TRY」 → 「DO」

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

このキャッチコピーを考えるにあたり、我々が念頭に置いたのは「我々教職員の行動規範となりうる文言」「卒業生、在
学生が”YNU でこんな人間に成長した”、といえるフレーズ」「今後、入学を目指す学生やそのご父兄が、”この大学に入学させ
ることでこんな成長ができる”、と将来を描ける文言」であり、言わば我々8人の「宣言」と掲げられるものとしようというの
が出発点でした。「NO」→「TRY」→「DO」のとおり、「出来ない」「ダメだ」と言っていた部分を「何とかして出来る手立
ては無いか」「策はないか」と「TRY」し、一歩を踏み出して何とか「DO」に漕ぎつけようというのが我々の宣言です。当然
ながら、「NO」というべき場面も多々あると思います。「YESMAN」になるという意味ではなく、これを為すことが YNU (or
自分) の成長に繋がると思った場面での「NO」に立ち向かおうという決意の宣言です。

8班で話をした8人は、YNUで働く教職員として、このキャッチコピーを念頭に置いて業務に励みたいと思います!!

○キャッチコピーを記入してください。

YNU は 「 隠された魅力はあるけれど、まだ発掘しきれていない 」 大学

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

- ・ アットホームだけど、個性がない。
- ・ 環境は良いが、刺激が少ない。
- ・ 大学としてのまとまりは良いが、閉鎖的。

○キャッチコピーを記入してください。

YNU は「バランスのとれた」大学

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

YNU は「バランスのとれた」大学

- ・教職員による運営はバラバラな部分があるものの、学生（卒業生）の立場から見ると、居心地のよい大学である。
- ・部局により特色の違いが大きいが、「バラバラ＝自由・多様性」と考えられる。
- ・都会の中の田舎、また田舎の中の都会である。
- ・1つのキャンパス、中規模、4学部、文理融合…。

○キャッチコピーを記入してください。

YNU は 3G な大学

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

- ・ **Glocal** (グローバル+ローカル)

- ・ **Green** (緑、環境)

Glocal Green Growth → 持続的発展

- ・ **Growth** (成長)

話し合いの中で挙げられたキーワードを基に、YNUのイメージに合う英単語の頭文字を取って「3G」としました。

単語の並びについてもこだわりがあり、「Green Growth」で「持続的発展」を意味することから、YNUの持続的発展を願う気持ちが込められています。

○キャッチコピーを記入してください。

YNU は「教職学共動を目指す」大学

○キャッチコピー完成に至る経緯や理由を記入してください。

- ・キャッチコピーは本学の現状または今後の展望を示すものであろう、と考えて話し合った。
- ・本学を外部の目から見てどうか？という視点で考えてみた。情報源としてホームページ、大学関連のニュースなどで、大学の新しい情報を得ているなどのコメントを出しあい、大学の状況を検討した。
- ・大学では主役はだれか？について話し合った。それぞれの立場で主役である、学生は単なるお客さんではなくもっと自立的な扱いをしてもよい、本学では学生への対応が甘いなどの意見があった。
- ・事務職員はどのようなときにやりがいを感じるか？学生への支援業務、科研費申請等に協力するときなど。
- ・本学の特徴について。学務部は学生支援が筆頭であり学生支援の充実した大学と言える。また、一つのキャンパスにまとまっており内部で連携をとりやすい。
- ・以上から、大学活動での「共動」に学生を含めることを今後の展望としてキャッチコピーを作成した。